

「渥美半島の自然を描く」展示リスト

企画展示室2

期間:令和3年4月17日(木)～6月20日(日)

No.	作品名	制作年	作者	点数	形状材質等	備考
1	渥美の菜畑	2006(平成18)年	杉浦 正美	1	油彩画布	
2	渥美の風景	1949(昭和24)年	仲谷 孝夫	1	油彩画布	
3	原生林	1999(平成11)年	大岡 澄雄	1	油彩画布	
4	雨乞山	不明	あらき ひろみち	1	油彩画布	
5	半島の花(伊川津のシデコブシ)	2013(平成25)年	平井 誠一	1	油彩画布	
6	赤羽根海岸(一色の磯)	不明	大場 厚	1	油彩画布	
7	黒潮	不明	大場 厚	1	油彩画布	
8	海に流れる	2000(平成12)年	大岡 澄雄	1	水彩紙	
9	伊良湖岬・日出の石門	2015(平成27)年	平井 誠一	1	油彩画布	
10	夕照 伊良湖水道	1996(平成8)年	大岡 澄雄	1	水彩紙	
11	椿咲く海浜	不明	木戸 史郎	1	油彩画布	

「渥美半島の自然」写真パネル

No.	写真名	地域	備考
①	日出の石門	日出町	
②	表浜の海食崖	六連町の百々海岸(太平洋側)	
③	蔵王山	吉胡町から撮影	
④	シデコブシ	大久保町の黒河湿地	県指定天然記念物
⑤	シデコブシ	伊川津町柁(なぐさ)のシデコブシ群落	国指定天然記念物
⑥	菜の花	堀切町の伊良湖菜の花ガーデン	



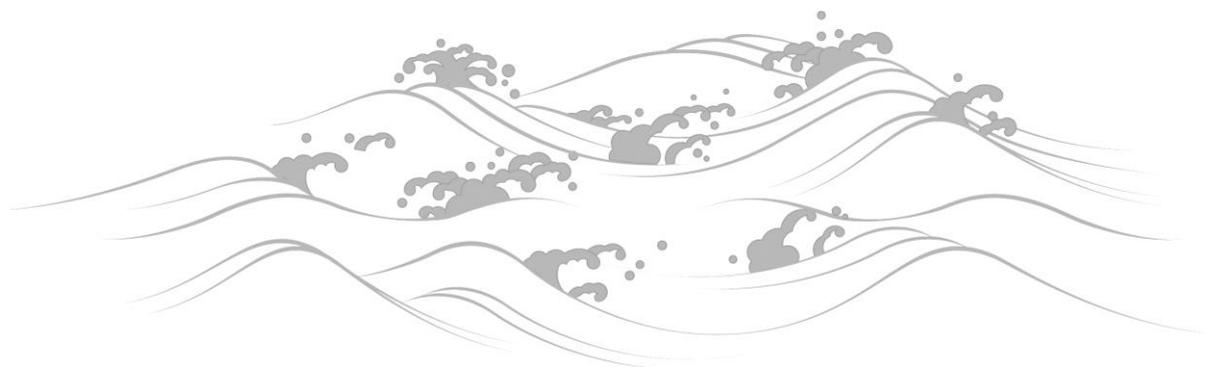
伊川津町柁のシデコブシ群落
国指定天然記念物

大岡 澄雄（おおおか すみお）

1935(昭和10)年～

渥美郡伊良湖岬村堀切（田原市堀切町）に生まれる。県立福江高校在学中は美術部に所属、中部水彩展、中部美術展、豊橋市民展などへ出品。武蔵野美術学校中退。

1957（昭和32）年、豊橋市民展で愛知県知事賞を受賞。同年、春陽会展、日本水彩展に初入選。1960年、日本水彩展で奨励賞受賞。翌年、同会無鑑査となる。1975年、日本水彩画会会友、太平洋展に初出品受賞し会友、翌年には、春陽会会友となる。1980年、日本水彩画会会員となり太平洋画会を退会。1986年、渥美町郷土資料館特別展「郷土の画人展」に出品。1988年、日本水彩画会評議員となる。1990（平成2）年、日本水彩画会で内閣総理大臣賞を受賞し、翌年、同会審査員。1996年、日本水彩画会監事、1998年には、同会理事（常務）となる。2012年、田原市博物館で「故郷への想い 大岡澄雄展—水彩画・油彩画の世界—」を開催。現在も日本水彩展を中心に活躍している。

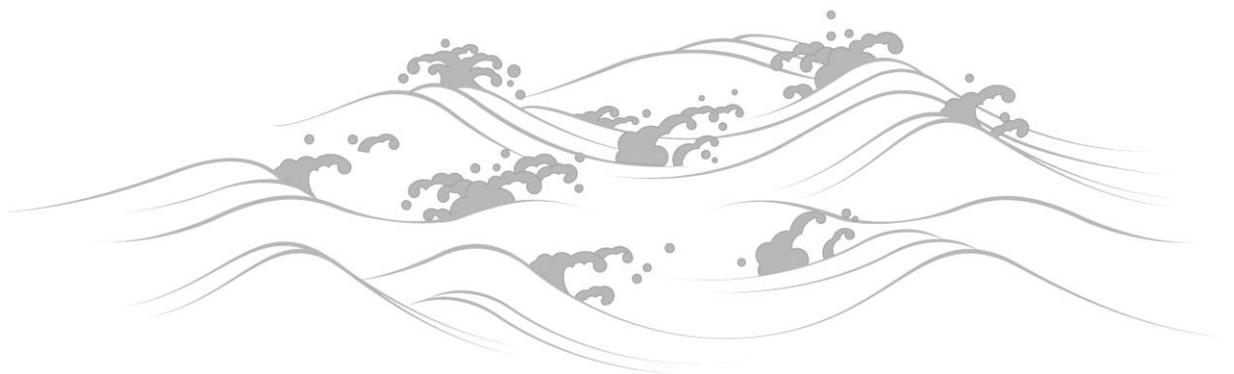


あらかき ひろみち（荒木 弘道）

1935（昭和10）年～2006（平成18）年

渥美郡福江町中山（田原市中山町）に生まれる。昭和20年代に中部水彩展入賞、自由美術展に入選するも、以後美術団体展活動から離れる。

その後、愛知県立高等学校教員として美術による教育に取り組む。一方で、渥美町（当時）在住の文筆家・杉浦明平書籍の挿絵などを描く。1986（昭和61）年、県立福江高校に赴任し、高校に隣接する渥美町郷土資料館にて1988年から「福江高校美術部OB展」を毎年開催出品、顧問として会の中心的な役割を担う。その後も地元を拠点に個展を開催。豊橋での展覧会には、楕円を構成の主体とする象徴的抽象作品を発表。渥美の展覧会には、出来る限り現実の風景の印象を大事にした作品を発表した。2006（平成18）年、逝去。

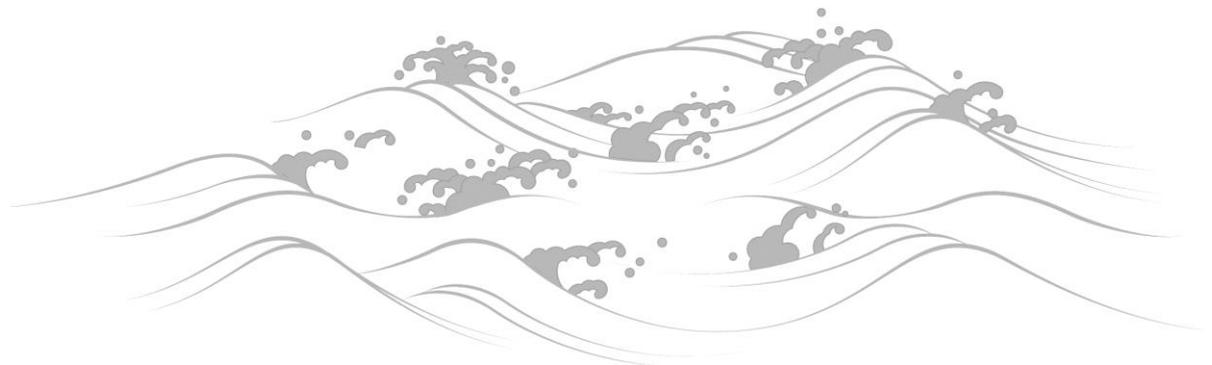


大場 厚（おおば あつし）

1908(明治41)年～1997(平成9)年

渥美郡田原町大久保（田原市大久保町）に生まれる。1930（昭和5）年、岡崎師範学校専攻科卒業。1940年、二科展に初入選（以後1943年まで出品）を果たす。同年、正宗徳三郎、向井潤吉に師事。1945年から成章中学（のち高校）美術教諭となる（～1962年）。

1946（昭和21）年、向井潤吉の誘いを受けて行動美術協会結成に参加し会友となる。翌年、東海行動美術協会を結成。1955年、行動美術協会会員となり、以後同展の審査員を務める。1959年、向井潤吉、田中阿喜良とともに渡仏。1962年、パリス工芸株式会社設立。行動展に出品を続けるほか、豊橋を中心に個展開催。1997（平成9）年、逝去。2006年、行動展出品作を中心とする作品の多くが田原市博物館に寄贈された

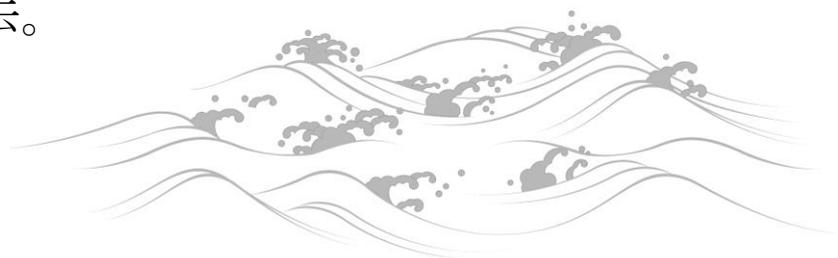


仲谷 孝夫（なかや たかお）

1918（大正7）年～2006（平成18）年

渥美郡神戸村志田（現在の田原市西神戸町）に生まれる。1939（昭和14）年、東海美術展に初入選し日本画協会賞を受賞。翌年、紀元2600年記念東海美術展で最高賞である日本画会頭賞受賞。1941（昭和16）年、京都市立絵画専門学校（京都市立芸術大学）卒業。翌年から福井の高等女学校で美術を教える。

敗戦をきっかけに日本画から油彩画に転身。1947（昭和22）年、京都市立美術専門学校研究科を修了、帰郷して田原中学校の美術教師となる。1949年、中美展初入選。翌年、東三在野美術協会の結成に参加。1951年、行動美術展に初入選。以後、同展に出品を続ける。1957年、行動美術協会会友、1962年、県立成章高等学校の美術教師となる（～1978年）。1970年、行動美術協会会員となる。1979年から豊橋技術科学大学（～1985年）、県立保育大学校（～1992年）の非常勤講師をつとめる。2001（平成13）年、豊橋市美術博物館で「仲谷孝夫展」を開催。2006年、逝去。



杉浦 正美（すぎうら まさみ）

1926(昭和元)年～2012(平成24)年

豊橋市に生まれる。1930（昭和5）年、5歳の時に母を亡くす。1934年、家庭の事情により、祖母のいる福江町折立（田原市折立町）の叔父の家で、弟と祖母とともに貧しいが心休まる幸せな日々を過ごす。その後、名古屋市で暮らす父親のもとに行き、1944年、予科練に入隊、敗戦を迎える。

1952（昭和27）年、北川民次、安藤幹衛に師事し二科展に初入選。以後、二科展を中心に様々な展覧会に出品を続けるほか、個展を数多く開催。1961年、二科展で特選受賞し、1963年には、二科展で会友となる。1979年、中日賞展で佳作賞を受賞、翌年の二科展にて会員、さらにその翌年には、二科展審査員となる。1991（平成3）年から風景の会へ出品。1996年には、二科会評議員となる。

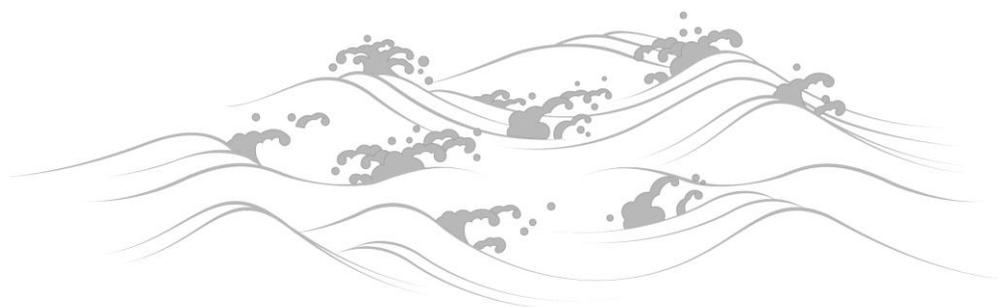
1999年（平成11）年、自身想いの強い渥美で「杉浦正美自選郷土展」（渥美町郷土資料館）開催。2001年、名古屋市博物館で「杉浦正美画業50年展」開催。画集「雑草のごとく」出版。晩年の作品には、渥美時代に深く心に刻まれた様々な体験がモチーフとなったものが見られる。

木戸 史郎（きど しろう）

1900（明治33）年～1986（昭和61）年

渥美郡堀切村（田原市堀切町）に生まれる。川端画学校で絵を学ぶ。卒業後、名古屋にアトリエを構えて制作活動を行う。独立美術協会会友となり、独立展に入選を多数果たす。

1954（昭和29）年には、南山堂より出版された『組織学』という本の顕微鏡組織図を描く。ここに描かれた図のタッチは繊細で彩色も美しく、いずれも独特の雰囲気を持ち、評価が高い。1969年、名古屋大学文部技官を依願退職。1972年、第13回CBCクラブ文化賞（くちなし賞）を解剖組織学図で受賞。1986年、逝去。



平井 誠一（ひらい せいいち）

1948（昭和23）年～

渥美郡福江町古田（田原市古田町）に生まれる。県立福江高等学校在学中は美術部に所属して絵画制作に励む。卒業後の1968（昭和43）年には春陽展に初入選したのをはじめとして、中部春陽展で何度も受賞され、画家としての道を歩み始めた。

1980（昭和55）年、愛知教育大学大学院を修了。1985年、稲沢女子短期大学（現 愛知文教短期大学）の^{どんちょう}緞帳原画を制作。1989（平成元）年の第66回春陽展で会員に推挙され、現在まで春陽展を中心に出品を続けるほか、1991年第8回伊藤廉記念賞展、1994年文化庁現代美術選抜展、2005年「愛・地球博」記念万博百景展をはじめ、中日ギャラリー、名古屋三越栄店、新宿三越、松坂屋名古屋店などで個展を開催している。2018年には田原市博物館で企画展「平井誠一展 ～色彩思考の変遷～」が開かれるなど、現在も、アトリエのある稲沢市を中心に精力的な作画活動を展開している。